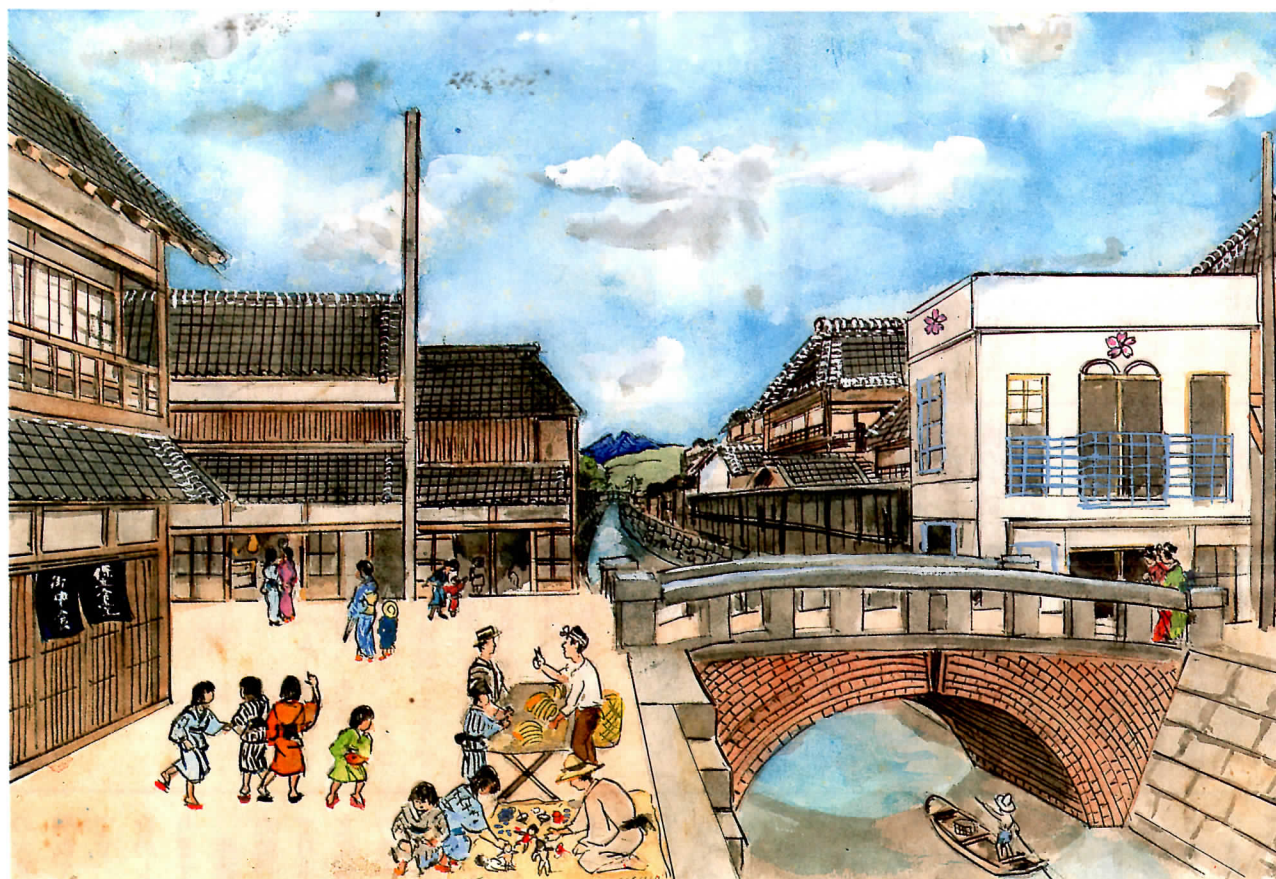


進修同窓会報

発行 土浦一高進修同窓会 編集人 同窓会報編集委員会 委員長 遠藤俊夫 印刷 常陽新聞社



大正10年頃の桜橋

中27回 佐賀 進

平成九年度 進修同窓会総会開かれる

去る四月十三日(日)、本年度定期総会が母校体育館にて、約四百名の会員出席のもとに盛大に開催されました。

まず、校歌斉唱・物故会員に対する黙禱ののち、幡谷会長・青山校長の挨拶があり、幡谷会長を議長に、豊嶋副会長を副議長として以下の議事が審議されました。

- 一、平成八年度事業報告
- 二、平成八年度決算報告
- 三、平成九年度事業計画
- 四、平成九年度予算
- 五、同窓会基金報告



総会で挨拶する幡谷会長

(A) 平成八年度決算

(B) 平成九年度予算

六、別途積立金報告の件

七、百周年記念事業会計報告

八、その他

(A) 進修同窓会規約改正

(B) 会員の推薦について

特に、七号議案については、二月二十八日現在での会計報告書が提示され、詳しい説明がなされました。そして、十分な審議ののち、全議案とも満場一致で可決・承認されました。

閉会の後、恒例の卒業周年祝賀式が開かれました。本年度は、中三六回(六十周年)、中四六・四七回(五十周年)、高九・定七回(四十周年)、高三三・高二四・定二一(二十五周年)の方々をお招きしました。幡谷会長のあいさつの後、中四八・高一回の木島幸夫氏より祝辞が述べられ、記念品贈呈の後、中四六・四七回の飯田清氏より謝辞が述べられました。

また、会場を別に移しての祝賀会では、往時を懐かしんでの交歓が和やかな雰囲気のもとで繰り広げられました。なお、この祝賀会の中で、同窓会館兼アリーナの施工業者に対して、感謝状と記念品が贈呈されました。

会長あいさつ

―五感謝を忘れずに―

同窓会会長 幡谷 祐一



いよいよ創設百年を迎える年になりました。記念事業の同窓会館、並びに希望した諸施設も完成して、十一月一日の百年祭が待ち遠しく思われます。

同窓会長を引き受けてから校長先生が替ること三人。また教頭先生、事務長さんの交替等、この五年間の変化は意外に多かったようです。

さて、五三号にも書いたように、これからの日本のあり方を心配しております。五十年の泰平に馴れて、総てを日本の物指しで計るようになり、世界に通用しなくなっ

てきております。ペルー事件にしても、あのテロの国で、それも夜にパーティーを行うなど、マスコミに依ると全く非常識だそうですね。更には警備も断っているような始末です。外交官ですらこのような感覚なのです。一般国民においては尚更に警戒等は希薄なものと思われれます。

元総理が国の山河は残つても、民族の誇りも魂も失つてしまつたのではと嘆いていましたが、私も同感です。

私は最近、事業所の玄関に二宮金次郎の像を安置しました。ただそれだけを見れば、カビ臭いと思うかもしれませんが、実は彼は経済の大家であり、今流に言えば会社再建の「プロ」、凄腕の持ち主であります。特に「積小致大」、つまりこつこつ築くという、今の日本人が忘れていて、商売の原点を教えてくれるところに魅力を感じたのです。一攫千金の夢ばかり

みている今の日本人に、この経世

の大家の信条にその一辺なりとも触れてもらいたく安置したわけです。これを私の経営する信用組合のシンボルとしていく考えであります。

生徒諸君には焦らず、地についた勉強を願っております。そして日本最優秀校となった今、更に文武両道に秀でたる人、社会常識の豊かな人として大成してもらいたいと願っております。過去には多くの日本を代表する先輩がこの門から巣立っておりますので、後に続く人達がたくさん出ることを期待しております。

私は最近忘れていたことに感謝するということを、次のように纏めてみました。

感謝天地恵

感謝父母恩

感謝五体健

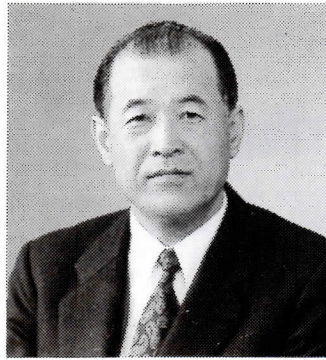
感謝国家援

感謝企業仕

私達は独りでは生きていけません。多くの方々に支えられて生きております。五感謝を忘れずに人生を送ることが出来るように願っております。

百周年の年を迎えて

学校長 青山 和義



百周年記念事業の現況

創立百周年という記念すべき年を迎えました。が、会員の皆様にはご健勝で充実した毎日をお過ごしのこととお喜び申し上げます。

本校は、明治三十年（一八九七年）四月二十一日に現在の亀城公園にありました新治郡役所楼上において授業を開始したのが始まりです。よって本年四月二十二日の創立記念日に、創立百周年を迎えたことになりました。現在、十一月一日の創立百周年記念式典に向けて着々と準備を進めております。

初めに百周年記念事業の現況について申し上げます。まず、募金活動につきましては、昨年の六月末日で終了いたしました。その後ともさみだれに納入下さる方が続いております。この五月末日で約二億五千七百円に達しております。バブル崩壊後の景気低迷期にもかかわらず、皆様方の母校に寄せる温かいお心遣いで、目標の二億三千万円を大きく上回ることができました。進修同窓会の底力を強く感じますと共に、募金活動でご尽力いただいた各回

募金委員の方々、募金にご協力いただいた方々に心から厚く御礼申し上げます。

この募金による同窓会館兼アリーナの建設は予定より約十ヶ月遅れて昨年の七月十六日に着工し、この四月十三日の進修同窓会総会の日に完成いたしました。当日は、午前十一時より落成式を行い、午後の祝賀会で、関係三業者へ感謝状と記念品を贈呈致しました。なお、同窓会館兼アリーナは、名称を進修記念館とすることが総会で承認されました。この建物は、並置して県費で建設された多目的学習館（進修学習館と命名）とほぼ同色で、隣接する旧本館とマッチするように設計されています。そのため、樟の大木など周辺の樹木と新旧三つの建物が醸し出す落ち着いた雰囲気は、素晴らしい学習環境をつくり出しています。

建設関係では、他に旧合宿所跡地に倉庫兼部室が新築されました。この建物は、二階建て一階は倉庫、二階は部室と更衣室となつています。また、旧制中学第三回卒の武井大助氏からの寄附金で昭和四十六年に建設された部室の痛みが目立つてきましたので、塗装の塗り替え等の改修も行いました。

次に、記念誌の進捗状況ですが、皆様の協力により、三月末日までに約三百三十件の依頼原稿がすべて集まりました。最後に残された経済・教育・スポーツなど分野ごとの座談会も二月後半から三月初旬にかけて実施され、その編集も最終作業段階に入っております。記念誌は、初めは約七百ページで作成する予定でしたが、現在の状況では約一千ページになる見込みです。

執筆された方々が大変意欲的で、依頼いたしました字数より多くお書きいただいたことがその原因ですが、貴重な原稿ですので、割愛せずページ数を増やすことにしました。そのため価格問題が生じましたが、価格は現状通りとし、その代わり印刷部数を増やし、これまでの三千冊から、できるだけ五千冊に近づけることにしました。現在、二千七百冊の申込みがあり、無料配布分、学校保存分などを考えますと三千五百冊程度はすでに確保しております。まだ購入申込みをされていない方には、ご協力をよろしくお願いいたします。

今後、記念式典までに残された仕事には、旧本館並びに進修記念館周辺を中心とした整備と、記念式典の準備があります。周辺整備につきましては、総務委員会が具体案を審議していただき、決定後ただちに着手いたします。なお、実行委員会の計画とは別に、PTAが百周年を記念して、彫刻家一色邦彦氏（高校第三回卒）の製作による、約一・七mのプロンズ像を旧本館周辺に建立することになりました。

本校の現況

この一年を振り返ってみますと、昨年度は非常に工事の多い年でした。百周年記念事業の一環としての進修記念館並びに倉庫の建設、更に部室の改修、また県の事業として本館の耐震工事があり、昨年九月から今年三月までは、校内至る所で工事という状況でした。特に本館の耐震工事は騒音がひどく、電話が聞き取れないほどでしたので、学習面への影響が心配されました。このような状況でしたが、この三月の卒業生の進学状況はさきわめて良好でした。大学進学率は約六三％で昨年とは同じでしたが、東京大学へ多くの合格者を出したことは特筆に値します。今春の入試は、新教育課程による最

初の入学試験ということで、新学習指導要領に基づく本校の教育課程が、十分に対応できたかという点を問われる入試でしたが、結果は満足すべきものでした。このこともありまして、二月後半から三月にかけて、北海道から九州まで約三十の高校から学校訪問があり、その後も続いています。また昨年度一部教育委員会からの学校訪問並びに講師依頼もありました。

部活動の状況につきましては、日常的に活動している運動部への加入率が五一・三％で、ほぼ二人に一人が加入していることとなります。最近の主な成績は、この春の県大会で弓道部が第四位となり関東大会に出場しました。また、サッカー部は県ベスト8まで進出、ソフトテニス部は県南大会で優勝しています。文化部では、将棋部が県大会で優勝し、八月の全国大会（奈良県）に出場することになっています。学校行事は、三日間に亘る一高祭、球技大会と体育祭とをミックスした一高オリンピック、約三十キロの歩く会の三大行事があります。これら伝統行事の他に、一年がボランティア活動と本場東京での芸術鑑賞、二年が企業・研究所訪問を計画しています。いずれも、進路についての問題意識の確立と心豊かな人間性の育成をめざして実施しています。特に、企業・研究所訪問は、大学卒業後まで考えた先駆的進路指導として雑誌でも紹介されました。

最後に、定時制でこの三月に画期的なことがありましたので紹介いたします。それは、三修三卒制度による卒業生が本校で初めて四人生まれたことです。定時制は通常四年で卒業しますが、この制度では、通信制あるいは大学資格検定試験で修得した単位を、本校定時制の単位として認め、本校での修得単位数を合わせて八十単位以上になったとき、三年で卒業を認定するものです。本校では、四年前にこの制度を導入し、この三月に初めて適用されました。

生徒諸君に望む

いよいよ創立百周年の年を迎えました。この機会を得た在校生諸君は、誠に幸運であり、記念式典は一生忘れられない思い出となることでしょう。本校は、近年の進学実績により全国的に知られるようになりました。今後本校生が、学力だけでなく優れた人間として認められるよう、心掛けてほしいことを身近なことで三つ述べてみます。

一つ目は、交通道德を守ることです。茨城県は、交通事故死亡者数が非常に多く、県教育委員会では高校生交通安全アアップ事業により、全県的に交通事故をなくす運動を推進しています。本校でも、自転車通学者に対して、ドライバークラスから乗り方についての苦情が寄せられることがあります。命に関わることでありますので交通法規を厳守し、交通安全に十分心掛けて下さい。

二つ目は、常に目標をもち、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動する力をつけることです。最近よく「与えられたことはよく行が、進んで行動しない」「リーダーにならないうい」ということを聞きます。将来、社会や職場でリーダーになることを期待されている本校生が、このような消極的な態度や待ちの姿勢では困ります。主体的・積極的な行動を望みます。

最後は、コミュニケーション能力をしっかりと身につけることです。最近、話す・聞くといった能力が低下していると言われている。会話は、日常生活の中で最も基本的なことであり、どんな職業に就いても必要とされる能力です。友人とよく話し合い、協力し合うなど幅広い人間関係も育てて下さい。

個性も優れた学力も、人間としての基本的な資質があつてこそ発揮できるものであつて、これなくして社会での活躍は望めないはずですよ。

「進修記念館」と命名

同窓会館兼アリーナ完成

百周年記念事業の目玉でありました「同窓会館兼アリーナ」が、この四月に完成いたしました。昨年七月に使用が開始されました「多目的学習館」と並んで、二つの建物が廊下で連結され、非常に機能的な施設となりました。また完成と同時に、建物の名称として、今後は「同窓会館兼アリーナ」を「進修記念館」に、「多目的学習館」を「進修学習館」にすることが決まりました。

そこで、今回は新しくできました「進修記念館」について簡単に紹介いたします。

一階には、アリーナ(小体育館)、ラウンジ、厨房が設けられました。



「進修記念館」全景

アリーナには、椅子二百脚と放送機器が備えられ、四百人前後の集会が可能であります。現在は、卓球部とバドミントン部が放課後の部活動に使用しております。次にラウンジですが、当初は、部活動合宿時の単なる食堂になるはずでしたが、会員皆様の熱意により、ランクアップされて「ラウンジ」と命名され、小会議や談話室としても使用できることになりました。厨房も、大型冷蔵庫から製氷器にいたるまで、大きくグレードアップされました器具が備えられ、共同宿泊学習等の際には大いに活用されるものと思われまします。二階は、浴室と同窓会室になります。浴室は、男子用と女子用の大小二室が設けられました。そして同窓会室ですが、豪華な会議用のテーブルと椅子が備えられ、ちょっとしたVIPルームといった感じがいたします。最後に屋上ですが、運動部の生徒達が合宿の際に汗にまみれた衣類を洗濯して干す物干し場となっております。並び建つ「記念館」と「学習館」を眺めておられますと、何か本校の教育の底流にあります「文武両道」を象徴しているかのように思えます。つまり「学習館」が「文」で、

「記念館」が「武」の象徴であります。ところで、「仏作って魂入れず」といった事が世間でよく聞かれます。進修同窓会会員の皆様の御協力の結果でもありますこの「進修記念館」を大いに活用し、本校教育の発展に貢献せしめる責任と義務こそ今後の課題といえましよう。

今年の春は、桜の開花が例年より早かったそうです。学習館前の枝垂れ桜も、いつの間にか葉桜になってしまいました。残念に思っていましたところ、先日、高八回卒のTさんから、旧本館を背景に、花を咲かせたこの桜の小枝の華やぐ姿を撮ったすばらしい写真をいただきました。

会員皆様の御活躍と御多幸を、心よりお祈りいたします。

◇

百周年記念事業校内実行委員長

川村 和夫



「進修記念館」同窓会室

私の海外生活

ASEAN3ヶ国の自動車 国産化政策への貢献23年

高6回 加藤賢一 (ニッポンデンソー マレーシア社長)



タイ販売会社設立の思い出

私のASEAN市場二十三年にわたる縁は、一九七二年、タイに設立された当社最初の海外生産工場のサポートと、本社製品の市場確保を目的とした販売会社の設立からスタートした。

当社製品は間接輸出が主体であったため、末端市場の実態把握から始めなければならなかった。取りあえず英語が出来、自分で車をもっていることを条件に、一流大出の通訳を採用した。彼とのコンビでタイの自動車関連業者、特に部品商とアフターサービス市場を、三カ月間連日飛び歩いた。

当時のタイ市場は、エアコンをはじめ粗悪品と当社製品のイミテーションが主体で、ユーザー軽視の市場であった。市場調査の結果

に基づき、当社独自の販売会社の設立、社屋の決定、従業員の募集、各種マーケティング活動へと展開、初年度より黒字経営を記録した。一年半の短期間で、当社ブランドの市場浸透と部品流通ルート、アフターサービス網の設立を完了した。

二十数年前に採用した従業員が今や幹部として活躍し、倉庫を含め二階までの使用で余裕のあった四階建てビルも、今や全階を事務所としても狭く、転居先を物色中とのことで、隔世の感がある。

販売会社の完成と同時に、不徳ながら急性肝炎を患い、二十日間タイで入院、その後日本に帰国、更に二カ月も入院することとなった。タイでの入院中に、当社取引先の一つでレストランを経営していた人達が、一日も欠かすことなく朝夕特別食を差し入れしてくれた。病院食では回復が遅れると気を遣ってくれたものだった。彼らとは、現在も親交が続いている。

タイは販売会社の建上げのみで手を引いたが、肝炎完治後、フィリピン・プロジェクトが待っていた。

フィリピン自動車国産化への貢献

一九七四年、当社はフィリピン自動車国産化政策に対応すべく進出を決定。当プロジェクトの代表者として赴任することになった。今回は自動車メーカーへの直納が主体で、納入先も想定できていた。ただし、エアコンは後付けが実態であり、その他部品の補修品市場はタイ同様のルート設定とアフターサービス体制確立から始めた。

主製品は市場規模が小さかったため、CKD輸入が主体であったが、プラスチック、巻線、プレス部品等は汎用性を工夫しながら国産化に努めた。エアコンは主要部品を国産化し、器用な現地人と一体となって市場に適合したものを開発、拡販に努めた結果、市場ナンバーワンの評価を得ることが出来た。アフターサービス網の設置とメカニックスの指導育成に、当社のベテランサービスマンがベストを尽くしてくれた。

その頃、マルコス大統領夫人のプロジェクトで市内バスにエアコンを装着する動きがあり、日野自動車とタイアップして大口受注に成功、後任者への置き土産とすることが出来た。六年半にわたるフィリピンでは、小規模ながらもエアコンを主体とした総合自動車部品メーカーとして総合自動車部品メーカーとして欧米車へも食い込み、市場ナンバーワンの地位を確保できた。数年後にマルコス政

権の崩壊に伴う自動車産業の破局を迎えるとは予想も出来ぬまま、一九八一年初め、マレーシア・プロジェクトを手掛けるために、思い出多いフィリピンを後にした。

三年前、十二年ぶりに訪比したが、私の訪比を伝え聞いた元従業員が各地から集まり、歓迎会を催してくれた。皆体型が変わっていたが、時の経つうちに昔のままのムードが盛り上がり、夢のような一夜を過ごせ、フィリピン・ホスピタリティを再認識した。

マレーシア・プロジェクト国民車の国産化と技術移転に貢献

マレーシアの自動車国産化政策では、一定の条件を満たした部品は自動車メーカーに強制採用されることとなっていた。当社も他のASEAN諸国での生産拠点が軌道に乗っていたため、進出を決定し、私は一九八一年二月、フィリピンより直接赴任することとなった。私にとって海外で三カ所目の会社設立となった。

当国の自動車政策は完全な政府指導型で、製造ライセンス取得には、十年の長期事業計画を詳細にわたり提出することが義務付けられていた。部別別の国産化計画(技術移転、販売価格は個別に審査された。特に販売価格のチェックは厳しく、量の確保が出来ない当国では、日本の製造コストより高くつくことを理解させるのに苦労した。当国の自動車産業の国産化

に寄与するのが命題であり、更に経営規模の拡大、会社の発展のためには、製造品目の拡大と国産化率の向上があるが、特に国産化の推進には頭の痛いことばかりであった。

年間、日本の五十分の一程度の、高々二十万台の生産に対し、思い切った投資をすれば、当然固定費が増長し経営は成り立たない。しかし、政府からは当初の計画遂行



デンソーマレーシア工場内にて

の圧力がかかる。また十分な技術移転をするだけの人材も不足しており、いつも板挟みの思いであった。結局、対象を国産車など一部の量産車の中の量産品に絞る。そこを切り口として徐々に拡大、政府にも事情を分かちてもらおうと働きかけた。進出時の計画から大きな遅れとなったが、これが本場のところの国産化推進・技術移転の実情であった。最近、当地の新聞に、日系企業、特に自動

車関連の技術移転の遅れを報道した記事が目立つ。しかし、常に企業の安定経営を第一に考えざるを得ない私の立場からは、こうした実情が理解されていないことに対し非常に歯がゆい思いがする。

近年の東南アジアの近代化のペースの速さは驚異的である。長らく在留する私の目にも、何もかもが日々刻々と変化する新鮮なものと映る。しかし、一企業経営者として、内部管理面、特にソフト面、従業員のしつけ、基本的動作の訓練等を見ると、文化の違いもあれど、未だ発展途上にあると言わざるを得ない。

このため、最近では特に人材育成・教育面に力を注いできた。これは当国の政策とも合致し、地元セランゴール州が人材開発センターを発足するにあたり、発起会社の一つに指定を受けた。その副会長職も授かり、地域社会に対する貢献の目玉としても活動を始めたところ、教育プログラムの策定を政府とともに進め出した。

また、自前では、従業員の本社研修がやはり一番の人材教育となる。毎年十数名を日本に派遣し、累計では百数十名を数えるまでにいった。転職が日常茶飯事の当地で、こういった人材研修が基盤となり、キースタッフが育ち、会社の基幹部分がある程度支えてくれるようになったのを見ると、労が報われたとしみじみ感じる。今後もスキルのみならず、マネ

ージメントを中心とした教育・人材育成への投資は惜しむべきものではないと思っている。

おわりに

浮き沈みはあったが、それは途上国の常、その変化を楽しみながら対応してきた。公私に亘りサポートして下さった多数の関係者のお陰で、当時通産大臣であった橋本龍太郎氏より平成六年度経済協力貢献者として表彰された。更に、昨年九月にマレーシア国王から勲三等JMN(ジュアン・マンクイー・メガラ)を受章することが出来身に余る光栄と感謝している。

今後はマレーシアの輸出重点政策に対応し、高付加価値製品を提供、アジア市場一本化の動きの中、地域内当社ネットワーク各社との相互補完を進め、国産化率の高い部品工業化を推進していきたいと思っている。

マレーシアはまだ人材不足で、技術者のレベルもそう高くない。日本からは官民一体で、もう少し細かい人材育成面での援助が必要と思われる。また、日本国内でのマレーシアの知名度は低いの、両国政府もPRに努力いただき、人事交流を拡大することが経済協力、技術移転に貢献することとなると思う。

どの国でも、真摯な態度と、上下を問わない良好な人間関係が、人生をより意味あるものにしてくれると確信している。

恩師を訪ねて

②

養護教諭 吉田 久子先生

在職

昭和二十九年～平成三年



◇いつ土浦一高に赴任され、いつまで勤務なさいましたか。

昭和二十九年九月から平成三年三月までの三十六年半。わたしはこころしか知らないんです。二十三歳くらいから六十歳まで、娘からおばあさんになるまで。今年定年のおやめになった人たちが、私にとっては最初の卒業生なんです。体育の住尾先生、土浦二高の大塚先生、植木先生、石岡二高の佐藤先生、みんなそうです。

◇久しぶりの一高の印象は。

だいぶきれいになりました。以前来たときは何だろうと思う時もあった、昇降口の乱雑さとか、そういうのが気になったのです。さきほどまで保健室にいて生

徒さんとも二十人ほど会いましたが、だいぶきちんとしていて、六年前とは変わっている。ちよつと前とは違う感じがしました。

◇先生は保健室の養護の先生でしたが、旧本館時代の保健室はどこにありましたか。

九回ぐらい場所が変わっています。いちばん最初は、今の体育館のところに合宿所があつて、そのわきが保健室でした。その隣りが野球部室で、そのわきに卓球部室、体育教官室、定時制の職員室があり、それが一並びの一室だったのですが、物置みたいなところでした。朝教務室に来て出勤簿に判を押すと、後は離れ小島で。

◇昭和三十年代はじめから平成三年まで、養護教諭としてどんなことを心がけましたか。

世の中が変わりましたよね。言われたことは確かによくやりますよね。ただ言われないと全然わからない。言われたことは素直に受けとめられる生徒が多い。昔から

登校拒否とか、学校に対して批判的な生徒なんかはけっこう保健室に逃げ込んできました。もう最後のころは、養護教諭というのは、心の支えになってくれる、先生がいなかったら卒業できなかった、ということをしづいぶん言われましたね。だから私も役に立つたのかなという気持ちもしました。そんな子は、保健室に来て自分のスペースを決めていて、そこにいと落ち着くみたいで。

昭和四十年ごろから、毎年カウセンセリングのセミナーみたいなのに参加しました。資格をとって、後半はそちらの方に重点が移ったようです。健康管理は情性でやって来たような感じがしたが、それがそれはそれでやらなければならないうことで……。一高のやり方が受験中心で、大学に入れるというのが……。機械化人間というのか、こういう人が医者になったらどういうふうになるのかなという不安も……。

入学して五月の中間考査が終わると、自分は来るべきではなかったという生徒が出てくるんですよ。五月病とかいうのか、中学時代トップクラスでやってきた人たちだから、下がるということがわかんないんですね。もうダメだ、おいていかれてしまふ、そんな気持ちになるんですよ。

それから健康調査というのを全生徒に実施していました。AMT健康調査。全生徒をチェックし、この子はどの辺を注意したらよいかとか。四月、五月はこの調査もあつてめまぐるしかったですね。これをずっとやって来たのが私にはよかつた気がします。苦しかったけれども、やっぱり、ずっと続けてよかつた。

◇一高時代でいちばん印象に残っているのは何ですか。

甲子園に行ったことです。昭和三十三年(第十回生)。野球部は七回生あたりから強かつた。あのころは運動と勉強が両立していた。安藤統夫君とか、岡野さん、藤枝さん。ちよつと島田監督の時

で、遠藤先生が部長で、亡くなられた滝田先生とか、河野先生とかと一緒に甲子園にのり込みました。また安藤君が慶應に行っている時神宮球場でやるときは見に行きました。立教、明治、法政みんな運動でいけたんですね。安藤君はほとんど前進できるタイプでした。年に一度OB会で会うのが楽しみです。

◇大変だったこと、つらかつたこと、もうかがえれば。

いろんな病気で休んだり、茨城

国体のころ腰をいためたり、スキーで左腕を骨折してギブスをつけたとか。

一高のスキー教室は、入江先生なんかがはじめられ、私もその最初から参加しました。

私は学生時代テニスをやっていた、石岡二高からテニスで国体に参加しました。赴任した一高でもやりたかつたのですが、あの頃の一高にはまだ女子が少なかつたので、テニスの方は……。

女子は学年で十人ぐらいで、いないクラスもあつたし、野村ルナさんなんかはクラスで一人頑張っていました。家庭科の宮本先生は十三回生でした。

◇一高退職後のことをお聞かせ下さい。

健康で、ボランティア活動をするのが目標だったんですが。現在母校石岡二高の同窓会長をやっています。また、二年ほど前から高校野球の救護の仕事を土浦市宮球場で、夏の大会があると出いてやっていきます。動けるうちはやりたいと思っています。

◇今の一高生に対してひと言。

勉強も大事ですけども、人間関係を考えられる人になってほしいですね。

卒業生レポート

- 2 -

大関由美子さん

高四十四回(平成四年卒)

昨年の第五三号に続き、今回も若手の卒業生の近況をレポートします。今回登場していただくのは、今春、慶應義塾大学を卒業され、大蔵省に入省された大関由美子さんです。七年ぶりの女性大蔵官僚の誕生ということで、マスコミでも取り上げられた方なので、ご存じの方もいらっしゃることでしょう。研修期間中の忙しい中、五月十九日にインタビューに快く応じて下さいました。



◆高校時代の思い出は

放課後は、軟式テニス部で汗を流していました。部員数が少なく、廃部寸前だった部を、努力して再建できたことが強く印象に残っています。土浦一高の授業は、どの授業もたいへんわかりやすく、楽しかったです。特に、世界史の授

業で課題図書(シエークスピアや憲法など)を多く与えていただき、幅広い教養を身につけることが出来たと思います。

◆大学時代の思い出は

大学でもテニスサークルに所属していました。また、旅行が好きで何度も海外旅行に行きました。ホームステイのためイギリスには2回行きました。その他、フランス・オーストリア・香港・シンガポール・マレーシアなどに行きました。昨年、スキューバダイビングの免許を取りましたので、夏は南の島へ行くかと計画しています。

大学では、理論経済学を専攻しました。特に、中央集権の弊害と地方分権のメリットなどを理論モデルを使って研究しました。

◆国家公務員を選んだ理由は

大きな理由が三点あります。一点目は、小六の時に祖母が倒れ、介護を必要とする期間があった事がきっかけで、介護・年金・労働者不足など、これからの日本の少死高齢化社会の問題に取り組みた

いと思ったからです。二点目の理由は、大学で理論経済学を専攻したため、それを国家公務員となつて実際に世の中のために活かしたいと思ったからです。三点目の理由は、規制緩和や倫理面などいろいろ問題になっている国家公務員の将来のためには、中に入つて改革すべきだと思ったからです。

◆大蔵省を選んだ理由は

特に省にこだわったわけではありません。多方面に興味があったので、大蔵省だけでなく、通産省・厚生省・労働省など多くの省を回ってみました。大蔵省は、最近女性を採用していないこと、特に私立出身の女性は三十数年採用していないこともあり、まず無理だろうと思っていました。しかし、住専問題などで批判されていた省なので、内部は一体どうなっているのだろうと思い、言いたいことを言つて来ました。最終的に、大蔵省を選んだ理由は、何人もの方に会わせていただき、人の魅力というものを感じたからです。

◆研修について

現在、五月六日から七月四日までの二カ月間の長期研修中です。最初の二週間は埼玉県入間市の人事院研修所に泊まり込み、講義と討論会の毎日でした。特に討論会では、理科系を含む各省庁の方々と一緒だったので、いろいろな考え方があつたことを痛感し、たいへん勉強になりました。今週は、重度障害者の施設でボランティア活動を行っています。

◆テレビ出演について

五月十八日のサンデープロジェクト(司会進行:田原総一郎・島田紳助・テリー伊藤)に、十二省庁の新規採用者三十五人で出演しました。この話があつた時、最初は乗り気ではなかったのですが、少しでも国家公務員のPRができ



大蔵省大臣官房文書課にて

ればと思います。大蔵省は三人で参加しました。まったくの生放送で、質問内容などは、事前に一切知らされていませんでした。大蔵省で女性ということもあり、予想通り何度も質問されましたが、いい経験になりました。今は、出演して良かったと思っています。

◆配属先について

配属先は、霞ヶ関の大蔵省内の大臣官房文書課に決まりました。

企業でいうと、総務課にあたります。他の省庁に対しては、大蔵省の窓口となることです。また、大蔵省内の各局の専門官が作成した法案や新聞発表文書などを、最終的に審査するところでもあります。そういった意味で、大蔵省全体を見通せる課といえます。

◆これからの抱負

もともとの志望動機が、高齢化社会の問題に取り組もうということでしたので、特にこの点で貢献したいと思っています。また、民間企業ががんばることができる社会でないと、日本の将来はないと思っていますので、高齢化社会に対応した環境づくりをしながら、民間活力のある社会を作っていきたいと思っています。仕事が忙しくなると、どうしても視野が狭くなりがちですが、今の気持ちを忘れずに、国民として客観的に物事を見ていきたいと考えています。

◆在校生へのメッセージ

土浦一高のみなさんは、大学受験があつたたいへんだと思いますが、感受性の豊かなこの時期にしかできないことがあると思います。部活動・委員会活動・趣味・読書などを通じて、幅広い視野と教養を身につけることも大切なことです。もちろん学校の勉強は一生懸命やってもらいたいと思いますが、それだけでなく、いろいろなものにチャレンジして下さい。

支部だより

土浦支部

平成八年六月二十六日一八時より各回を代表した会員二十六名の参集を戴き、恒例の支部総会を霞月楼に於て開催致しました。

本部・学校当局より青山校長先生のご臨席を戴き、支部長より資料に基づき創立百周年事業の進捗状況と募金活動の成果を報告し、支部会員のご努力と篤志寄附に対するご協力に深く感謝の意を申し上げます。又校長先生より母校の進学状況や部活動の現況報告等お話し下された後、募金協力に対して鄭重な御礼の言葉を戴きました。



阿見支部総会にて

阿見支部総会は、平成八年十月十九日に「割烹みとや」に於いて開催しました。

阿見支部

「みとや」のご主人は米川幸雄氏(高十五回)であります。また、「みとや」は、校歌にある「筑波の山のいや高く、霞ヶ浦のいや広く…」ごとく、その双方が一望できる景勝の地にあることを付け加えていただきます。

総会は、青山和義学校長、横田尚義副会長をお招きして、野口昭

和氣あいあい親睦深める

長等お骨折り下さいました魅力ある酒井亨辨護士を失った事は誠に残念で、支部にとりましてでも大きな痛手損失であると思います。唯、参集は少ないとは申せ母校に対する愛情は各回の幹事として募金活動の推進役を、又、篤志寄

真鍋支部

平成六年度に支部会員名簿を作成し、会費の納入をすすめ財政の確立を図りました。

会員も平成七年に新加入もあり、現在三八〇名となりました。

附に対しても二千数百万円と決して他支部に劣らない成果をあげることが出来た事で土浦支部の存在価値を百周年の一頁を飾る事が出来た事をアピールして支部報告と致します。

豊嶋 貴(中三十七回)

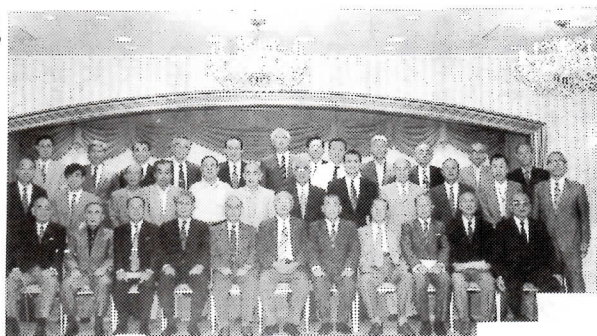
平成八年六月二十三日(日)午後二時からプラザヘイアン土浦で開いた支部総会には、会員三六名が出席しました。

総会は、荒井忠司君が司会進行を担当し、松浦光夫副会長の開会挨拶で始まり、樋戸支部長の挨拶をいただいた後、ご多忙の中出席

願った幡合同窓会長から、母校創立百周年記念事業募金活動に対してのお礼の言葉があり、次いで、青山校長から百周年記念事業の進捗状況と学校の近況が報告されました。

議事に入り、成嶋正芳君から会計報告、中西潔君から監査報告、次いで、支部運営の強化を図っていくため、副支部長に横田尚義君(元母校校長)と副会計に菊田俊男君(茨城図書社長)を選任しました。

議事終了後、平成六年度、叙勲の栄に浴しました宇田川仁様に、支部長から記念品が贈呈されました。



真鍋支部総会にて

贈呈を受けた後、宇田川様から記念の講話がありました。特に、戦時中の生死を分けた体験とその後の経済人としての生き方は、出席者に大変感銘を与えました。清水隆副支部長の閉会の挨拶で総会を閉じ、記念写真を撮りました。

懇親会は、宇田川様の叙勲の祝賀と併せて、中山直四郎君の乾杯の音頭で盛大に進行されました。久し振りに会員の交流と親睦が深まり、時間のたつのも忘れる程で、説田太郎君の音頭で校歌斉唱し終了しました。

来年は、母校創立百周年に併せて、記念の支部総会を開きたいと願っています。

樋戸博(中三十五回)

おしらせ おたより

土浦一、下妻一合同
ゴルフコンペの集い

風薫る五月七日筑波山中腹のゴルフ場は、目の前に紫峰が並び、山は緑、花紅にして空は青く、遙に土浦の街並が積木を展げた様に見えた。

標記のコンペは土中・土浦一と下中・下妻一の合同コンペと言っても同じですが、両校は嘗て、水戸一の分校として岐れ、共に創立百周年を迎え、戦争中には軍需工場へ、戦後は校内の終戦処理、民主活動に明け暮れ、その間、若干の生徒の転入学も行われた激動の体験を共有いたします。

その頃の生徒であった酒寄恵行君らの発案を得て、我々コンペでは海老原雄一君、小林芳男君、下一では、元国鉄スワローズのピッチャー初岡栄治君、下一同窓会々長西山栄次郎君らの骨折りで右コンペが結成され、第八回がこの日行なわれた。

もともと、下一は赤城君を盟主として同窓が支援のため月例会がある程で、体力壮健、剛腕。我がチームは歯が立たないので世話役達も忸怩たる思いがあるのか年一回しかやらない。

しかし、回を重ねる毎に親しみは倍加し、昨年暮、赤城君御曹子

の選挙では、我が名誉会員遠藤俊夫先生（本紙編集委員長、海老原雄一君（土浦医師会長、小生と皆、夫々知己友人を訪れ、声を掛け、御曹子は初選挙区ながら大量得票を集めたが、微力もあつたかと思っている。

高三会同窓会総会

高三会（昭和二十三年併中一回卒及び昭和二十六年高校三回卒）では、母校の創立百周年を祝して、去る四月二〇日（日曜）落成間もない同窓会館において、三年振りに同窓会総会を開催した。会館建設に際し寄付を仰いだ級友に一目見て

いたことが計画したのである。一五名の多数が出席し、遠く大阪や岩手からもかけつけ、県外からの参加者は二九名に及んだ。卒業以来四六年振りの再会者も居て

白髪あり光頭ありなのだが、皆若々しく感じられたのは同級のせいばかりだろうか。好天に恵まれ、会館をバックに記念撮影したが、此処には私たちが在校中に創立五十周年の記念事業で建設された講堂が建っていたところで、懐しい思い出と共に時の流れの速さを強く感じた。

総会は、櫻井芳賢君の軽妙な司会で進められ、まず物故者五五名

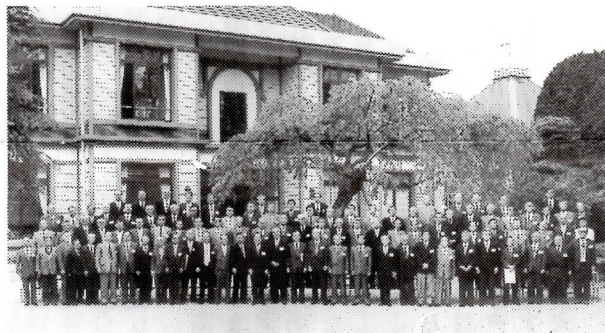
そして、遂に好運（新ペリア）にも下一の強豪を退けて、始めて我が沼崎庄一君が優勝の栄冠を得た。

斯くして、下一に追いつき追い越せの努力は、見果てぬ夢を追うといえども、このコンペが、我々に生涯現役、生涯青春の現実と齊らしてくれることになったのである。

木島幸夫（中四十八回、高一回）

に対して黙禱を捧げた。続いて青山和義校長先生より学校の現況について説明を受け、素晴らしい成果を挙げているのに感嘆した。議題について協議に入り、四年後の卒業五十周年の記念行事について意見を交わし、又役員改選を行って次のとおり決めた。

会長 長壁 英進（新）
事務局 長 櫻井 芳賢（再）



進修学習館の前で記念撮影

会計係
同 古徳 敬一（再）
池羽 克己（新）
土浦支部長 本澤玄四郎（再）
東京 同 稲生 瑞穂（再）
水戸 同 石川 道敏（再）
石岡 同 塚本 恭司（再）
つくば同 根本 基之（再）

真壁 同 鈴木 三男（再）
最後に、計量学の権威山本弘君の講話を聴いて総会を閉じた。
懇親会は、会場を土浦第一ホテルに移し、恩師永山正先生をはじめ、片岡久、佐々木孝三、出頭富衛、菅沢虎彦、富田昇、矢口四郎、山崎長次郎、横田尚義、青山校長各先生のご出席を賜わり盛大に開催した。冒頭、かくしやくとした永山先生（九四歳）のご挨拶をいただいたが、長寿の秘訣には皆真剣に聴入っていた。幡谷剛司君の乾杯で祝宴に入り、お互いの健康をいたわりながらグラスを合せ、積もる思い出話に花を咲かせ、時の経つのも忘れて心ゆくまで歓談した。閉会まで席を立つ人もなく名残惜しみながら校歌斉唱、万歳を唱え、又の日の再会を約して散会した。
終りに、開催に当ってご協力いただいた地元有志に深甚の謝意を表します。
幹事代表 小野芳男

「進修OB文庫」開設!!

百周年を記念して会員（同窓生、現旧職員）の著書コーナーをつくります。ご寄贈ください。詳しくは土浦一高内「OB文庫」係まで。

職員室だより

保健体育科

今春、住尾勉先生(高7)がご退職され、新たに谷口実先生(高31)を、並木高校より迎え入れたしました。体育職員室は、体育館ステージ二階の左右に、警沢にも二部屋使用しております。一方には、体育科主任の大浦民雄(生徒指導部副部長・柔道・ヨット他・高22)、堤祥光(保健部部長・バスケット)、大村久(生徒指導部副部長・ハンド)の三名。もう一方には、山越好宏(二D担任・保健部副部長・硬式野球・高30)、中江哲史(三E担任・教務部・サッカー・高30)、谷口実(生徒指導部・ラグビー・高31)の三名。計六名がスタンバイしております。

主任の大浦が十一年目と最も長く、その他は最近の五年間で大きく若返りました。生涯体育を考慮し、生徒個々の伸長を重視した選択制の授業形態によって、自ら工夫し取り組む姿勢や生きる力の育成に努めております。伝統の「一高体操」は健在です。今年の一年生は、六月まで必死に取り組みました。保健の授業では、課題学習やディベート等を積極的に導入し、楽しい授業を目指しております。また、四月に完成した進修記念館のアリーナをフルに活用させていただき、卓球・バドミントン等で、教員も日々汗を流して頑張っております。

理科

須賀田喜孝先生(生物)を石岡一高、大塚栄一先生(物理)を本校定時制へとお送りし、新たに境高より松山修先生(物理・下館工業高より横野繁樹先生(生物)をお迎えいたしました。一年担当は横田(生物一E担任・横野(生物)・原田(化学一学年主任・高20)、二年担当は阿内(化学一担任)・柴田(化学)・山口(物理数科主任・高11)・松山(物理、三年担当は武井(化学三担任、結城(物理三学年主任)、実習講師(小島・野田)、実習助手(染谷)の十二名の陣容です。理科の分野における科学技術の進歩は著しく、最先端技術には驚くべきものがあります。入学してくる生徒たちの知的関心に応えようという工夫をしています。その一つに科学実験講座の実施があります。大学や研究機関で最新の研究をしてもらえる方を講師にお招きして実験・講義をしていただき、生徒の興味や関心を高めるようにしています。今年度も十一月十五日(土)に第九回科学実験講座を実施する予定で、現在内容を検討しています。また、昨年より理科数科対象にはじまった夏休みの実験講座では、理科教員が全面的にバックアップしています。

定時制(給食室)

定時制の給食は、田中・染谷の二人で、毎日約百食作ります。一時間目の授業終了後の六時から三〇分間が給食の時間です。メニューについては、生徒達の興味関心を引くようなものや、魚料理や煮物など家庭的なものを多くしています。盛りつけは、できるだけ直前に作り、温かいものを食べてもらうようにしています。また、常に清潔と整理整頓を心がけ、〇一五七対策では、徹底した熱湯消毒と手洗いの励行を実施しています。生徒達が残さず食べてくれ、「ごちそうさま、おいしかったよ」といつてくれた時が一番うれしい時です。これからも、定時制の生徒達のため、おいしい給食を作っていきたいと思っています。

最近の献立表の例

御飯、鶏手羽の八角煮、 がんもと小松菜の煮物、牛乳
御飯、さんまの挟み揚げ かニ茶碗蒸し、牛乳
御飯、海老チリ春巻 春雨サラダ、牛乳
御飯、さわらの塩焼き 隠元豆の胡麻サラダ、牛乳
山菜炊き込み御飯 海老茶碗蒸し、すまし汁



各部だより

硬式野球部

毎年七月の県大会には、硬式野球部OBの方々はもちろんのこと、数多くの卒業生の皆様方にご声援を賜り、誠にありがとうございます。こしはばく、華々しい実績こそ残してはおりませんが、お陰様で一昨年は二度、昨年は一度、校歌を歌うことができました。現在の部員数は、選手二十八名、マネージャー四名と県内の水準に達しており、OB会である「亀城クラブ」より多大なご支援をいただき、恵まれた条件のもとに活動を続けております。本年度五月までの対外試合成績は、十三勝十四敗となっております。また、指導者三名(顧問小松崎教諭・高15、監督山越教諭・高30、部長笹目・高24)がいずれも本校野球部OBという、県内でも珍しい構成になっております。

本年は、創立百周年、甲子園出場四十周年という節目を迎えました。全国的にも屈指の公立進学校と評価される現在、優れた野球技量を持つ生徒の入学が難しくなっております。しかし、様々な工夫を重ね、勉強でも野球でも、そして人間としても成長を果たせるように、「文武秀逸」を目指して精進しております。今後とも、ご声援をよろしくお願い申し上げます。

(部長 笹目俊夫)

地学部

以前は部員がたくさんいたようですが、現在は三年生一人、二年生六人と、非常に少ない人数で活動しています。地味なイメージのせいか、新一年生の入部は今のところありません。ヘル・ポップ彗星による天体観測ブームも、手伝ってはくれなかったようです。現在の主な活動は、天体観測合宿と一高祭でのプラネタリアムの上演です。弱小部となつてはいますが、プラネタリアムは多くの人々に楽しんでいただいています。スライドの同時上映復活の話が部員の間であがっていますが、機械の故障と、何よりも人手不足で実現不可能な状態となっています。今、一番の心配事といえば、やはり少なすぎる部員数のことです。このままでは、自然消滅してしまう可能性があります。今までの何度か廃部の危機に見回れたそうなので、今回もしぶとく生き残つてくれることを願っています。今まで不便だった学校での天体観測合宿が、このたび完成した進修記念館のおかげで、非常に快適になり、今まで以上に有意義な時間を過ごせるようになりました。現役生の今後の活躍と、部の存続のために、OBの方々のより多くのご協力をお願いいたします。

(OB 高49 長井三知子)

全国第一位

公立校 東大合格者数

平成9年度大学入試報告 進路指導部

今春の平成9年度入試は、新課程入試元年とも呼ばれ、今後の入試の方向を展望する意味を持つがゆえに、各方面から熱い注目を浴びる入試となりました。

幸いにして、本校生が受験する主要大学では見事な好成績を収めることができました。このことは、生徒諸君の努力はもとより、本校職員、保護者が、ともども一致結束し得たことのたまものであり、とりわけ学年関係職員の熱意ある指導と、三年間にわたるその労苦と努力には大なる敬意と賞賛とを贈りたいと思います。

今春の入試では、なんといつても東大合格者数が四十三名、うち現役合格者数三十三名という、全国の進学関係者の目を見張らせた成績が画期的でした。この現浪計四十三名、現役三十三名の合格者数は、いづれも文句なしの公立高校全国第一位。六年制の私立・国立高校の中に置いた全国順位でも、それぞれ、十六位、十二位となります。これは本校が、かつては仰ぎ見る存在であった東京の名門私立・海城高校と肩を並べ、桐朋高校の上位に立つという、信じられないような成績を樹立したことになります。今回の成績が、「本校の東大受験の歴史に新地平

を拓いた金字塔」という評言も決して過言ではないはずです。

さらに、本校生の国立大受験では、その受験者数が最も多い筑波大学において、現浪計五十二名、うち現役四十二名の合格者を出すことができました。無論、全国第一位の成績ですが、ここ数年減少傾向にあった筑波大合格者数が、久々に従来の現浪計五十名台、現役四十名台への復活をなしたというところで、これまた特筆に値する成績です。

また、私立大入試においても、すこぶる好調な成績を示し、とりわけ、早稲田大九十五名、慶応大七十四名、青山学院大三十九名という合格者数は、本校での新記録になります。

このように、今春の入試成績は躍進に満ちた活況のうちに終わりましたが、その躍進の内側を覗いてみると、新課程第一期生(現役)の頑張りとおわせて、過年度卒業生(浪人)の奮闘ぶりが光ります。国立大では、東大十名、京大七名、東北十三名、私立大でも早稲田大五十名、慶応大三十三名という大量の合格者を出しました。その雄飛を生んだ雌伏の日々に心より拍手を送りたいと思います。

平成9年度 大学別合格者数

国立大学					国立短大					私立大学					私立短大				
大学名	合格者	新卒	旧卒	平均	大学名	合格者	新卒	旧卒	平均	大学名	合格者	新卒	旧卒	平均	大学名	合格者	新卒	旧卒	平均
北海道	6	3	3	7.2	筑波医療技短	1	1		0.2	共立薬科	1		1	2.2	日本歯科	1		1	0.0
弘前	1		1	1.6	国立短大計	1	1		0.4	杏林	2	1	1	1.6	日本社会事業	1	1		0.4
岩手	2		2	0.6						慶応	74	41	33	57.8	日本女子	18	17	1	15.0
東北	24	11	13	22.8						工学院	2	1	1	3.4	法政	25	11	14	29.0
山形	1		1	2.0						國學院	4	2	2	4.2	星薬科	3	1	2	1.6
茨城	7	6	1	17.8						国際基督教	5	3	2	3.4	武蔵	1		1	4.8
図書館情報	1	1		2.6						国士館	3		3	2.6	武蔵工業	2		2	4.2
筑波	52	42	10	49.0						駒沢	6	2	4	7.4	武蔵野美術	1		1	0.8
宇都宮	1	1		1.6						白百合女子	3	3		0.6	明治	46	21	25	44.8
群馬	2	2		1.4						実践女子	2	1	1	0.8	明治学院	5	2	3	9.6
埼玉	3	1	2	5.8						芝浦工業	8	2	6	12.4	明治薬科	2		2	2.8
千葉	9	5	4	11.4						順天堂	3		3	0.8	立教	22	12	10	22.8
お茶の水女子	4	4		5.8						上智	22	14	8	22.0	早稲田	95	45	50	75.6
電気通信	1		1	2.6						昭和	6		6	1.6	神奈川	1		1	3.4
東京	43	33	10	27.8						昭和女子	1		1	1.8	同志社	2		2	4.2
東京医科歯科	1		1	2.4						昭和薬科	1		1	1.0	立命館	24	5	19	13.6
東京外語	4	3	1	4.8						成蹊	3		3	5.2	竜谷	1		1	1.4
東京学芸	6	5	1	6.6						成城	3		3	5.4	関西	1		1	4.6
東京芸術	1		1	0.4						聖路加看護	1		1	0.0	近畿	1	1		1.4
東京工業	16	12	4	15.8						専修	7	3	4	7.2	私立大学計	707	331	376	706.8
東京商船	1	1		0.0						大東文化	1		1	3.6					
東京水産	2	2		0.2						大正	1		1	0.8					
東京農工	3		3	2.0						中央	37	17	20	36.2					
一橋	3	1	2	5.8						津田塾	10	10		7.8					
横浜国立	6	4	2	10.4						帝京	1	1		1.6					
新潟	3		3	1.8						東海	6	2	4	5.0					
金沢	2	1	1	1.2						東京家政	2	1	1	0.8					
信州	1	1		3.0						東京慈恵会	1		1	0.0					
静岡	1	1		0.6						東京女子	16	11	5	11.0					
名古屋	3	2	1	3.8						東京女子医	1		1	0.0					
京都	8	1	7	2.8						東京電機	1		1	7.0					
大阪	1		1	3.4						東京農業	7	2	5	5.4					
和歌山	1		1	0.2						東京薬科	2	1	1	4.2					
神戸	2	1	1	2.0						東京理科	82	34	48	88.2					
高知医科	1		1	0.2						東邦	3	2	1	4.2					
九州	1		1	0.8						東洋	12	1	11	8.0					
鹿児島	1		1	0.0						日本	27	12	15	28.6					
国立大学計	225	144	81	237.2						日本医科	2	1	1	0.2					

平成9年度大学入試 合格者数				
大学合格者数	合格者	新卒	旧卒	平均
国立大学計	225	144	81	240.4
国立短大計	1	1		0.4
大学校等計	2		2	4.8
公立大学計	11	6	5	15.0
私立大学計	707	331	376	706.8
合 計	946	482	464	968.4

新卒：平成9年3月卒業生
(普通科49回、理数科26回)

本表は平成9年度入試で合格者の出た大学のみを掲載した。空欄は0である。
平均は平成4～8年度入試までの5年間の合格者の平均値である。

母校だより

第50回一高祭

「新世紀」をテーマに開催

一高祭運営委員長 大野道子

去る六月六・七・八日、第五十回一高祭が「新世紀」というテーマのもとに開催されました。創立百周年文化祭第五十回と区切りの良い年であり、実行委員一同、昨年秋季より準備を進めてきました。

運営委員会では、二千個以上の空き缶で壁画を作り、校舎側面を飾りました。第一会場(体育館)では、毎年前後祭で行われていた合唱のかわりに、六クラスによるステージ発表を行いました。多少の戸惑いはあつたものの、新しい試みとしてはまずまずの成功だったと思います。第二会場では、校舎内部の充実をはかるため教室企画を多くし、また「一高生と諸問題」という研究発表を行い、来校者に一高生の考え方を理解して頂きました。第二会場では、完成したばかりの進修記念館(通称アリーナ)で百周年記念企画として、一高出身の先生方の講演やパネル展示、毎年恒例の「のどじまん」が行われました。ゲート作成委員会では、当日の朝まで頑張つて「札幌時計台」を造りました。白壁に赤い屋根の時計台が来校者を迎えてくれました。広場委員会では、伝統行事だった美人コンテストのかわりにM-SQUAR Eというクラス対抗歌合戦を行いました。また、毎年好評のディベ

トは、先生同士の対決や昨年転出なさった郡司先生の特別出演等で大いに盛り上がりました。宣伝広報委員会が毎年行っていた小学生のための「まつり」に四クラスの参加があり、訪れた小学生達にも大好評でした。

また、今年は販売委員会の五つの店の他に、三クラスが模擬店を行ったため、一高祭における食糧不足が緩和されました。放送委員会では、委員が作成した番組と企画CMを校舎内に流し、一高祭の雰囲気盛り上げました。

各クラスでは、教室企画やステージ発表等の形で、クラス一丸となつて文化祭に臨みました。一高祭を通じて、どのクラスも親交が深まったと思います。

以上の様な形で第五十回一高祭は「全員参加の一高祭」という目標をほぼ達成して、盛況のうちに終わりました。

一高祭の大きな特徴は、委員会組織がしっかりとっている事だと思えます。先輩方が築き上げて下さった伝統の御陰で、準備が大変な大きな企画もスムーズに行う事が出来ました。しかし、一方では企画のマンネリ化や、一高祭に無関心な生徒が多くなったことも否めません。そこで今年は、前述の様に委員会企画を行いつつも、全クラスがクラス企画を行うようにして、「一高祭の活性化」を図ってみたい。そして、「新世紀」を迎える土浦一高の今後の発展を目指して、多少の変革を行ったつもりです。

平成8年度 進修同窓会決算書

収 入 額 一金 23,613,378円也
支 出 額 一金 12,699,236円也
差 引 残 高 一金 10,914,142円也

単位:円

【収 入】

項 目	予 算 額	決 算 額	比予算増減	備 考
1 繰 越 金	10,245,566	10,245,566	0	前年度繰越金
2 終 身 会 費	100,000	880,000	780,000	
3 年 会 費	5,000,000	10,500,000	5,500,000	
4 入 会 金	1,950,000	1,980,000	30,000	全・定合計396名×5,000円
5 寄 付 金	100,000	0	△100,000	
6 雑 収 入	4,434	7,812	3,378	預金利息
合 計	17,400,000	23,613,378	6,213,378	

【支 出】

項 目	予 算 額	決 算 額	比予算増減	備 考
1 総 会 補 助	700,000	497,339	△202,661	資料、会場設営外
2 会 報 発 行 費	3,000,000	3,247,384	247,384	会報印刷代、送料
3 通 信 費	500,000	26,380	△473,620	はがき代外
4 卒業記念品費	200,000	152,000	△48,000	卒業証書用筒代
5 卒業25、40、50、60周年記念品費	400,000	300,000	△100,000	
6 会 議 費	500,000	16,995	△483,005	
7 支 部 連 絡 費	300,000	240,000	△60,000	
8 生徒奨励費	600,000	561,000	△39,000	生徒会補助
9 別 途 積 立 金	4,000,000	4,000,000	0	
10 慶 弔 費	100,000	71,740	△28,260	
11 事 務 局 費	4,000,000	3,586,398	△413,602	
12 還 付 金	100,000	0	△100,000	
13 予 備 費	3,000,000	0	△3,000,000	
計	17,400,000	12,699,236	△4,700,764	

上記のとおり決算しました。

平成9年3月31日

※項目間の流用を認める。

茨城県立土浦第一高等学校進修同窓会会長 幡谷 祐一

監査の結果上記のとおり相違ないことを認めます。

平成9年3月31日

監事 丸木 政之助 印
監事 野山 茂 印

会費納入のご報告とお願い

平成八年度は、平成九年二月末日現在で、約三千二百名の会員の皆様から、合計千三百三十八万円の会費を納入していただき有り難うございました。

今年度も納入していただきたく振替用紙を同封いたしました。会費は、同窓会事業費に当てられますので、よろしくご協力のほどお願い致します。

編集後記

梅雨の季節にしては、今のところ爽やかな日々が続いています。母校は創立百年を迎え、昨年七月進修学習館が、本年四月には進修記念館(同窓会館)が旧講堂跡に完成しました。また、本館校舎両翼に耐震壁もでき上がり、鮮やかな色どりを添えています。旧玄関前の三本の楠の大木は真鍋台の移り変わりをいかなる思いで見ているでしょう

か。

今年は、十二月末頃に百周年記念号をお届けする予定です。

◇

進修同窓会報 第54号

発行日 平成九年六月三十日

会報委員会 委員長 遠藤俊夫

編集長 長南紀郎

横田尚義 木島幸夫 堀越博

谷中良雄 宇田川仁一郎

宇田邦利 鈴木志郎 鈴木淳一

宮本昌子 山田修 中江哲史

中島博司